## 抗糖脂質抗体と神経疾患



近畿大学脳神経内科 楠 進

近畿大学医学部 教授退任記念講演会 (2020年2月20日、大講堂)

## 脳神経内科(神経内科)とは

大脳・中脳・橋・延髄・小脳・脊髄・ 末梢神経・筋の器質的疾患を扱う科である

# 神経疾患の病態(メカニズム)

血管障害

• 感染性疾患

• 腫瘍性疾患

外傷

• 代謝性疾患

中毒

変性

免疫

• 奇形

• 発作性疾患

• 機能性疾患

梗塞、出血など

髄膜炎、脳炎など

脳腫瘍、脊髄腫瘍など

脳挫傷など

先天性代謝異常(白質ジストロフィーなど)

重金属、薬物など

アルツハイマー病、パーキンソン病など

多発性硬化症、ギラン・バレー症候群など

キアリ奇形など

てんかんなど

緊張型頭痛など

• 内科疾患に伴う障害 糖尿病性末梢神経障害など

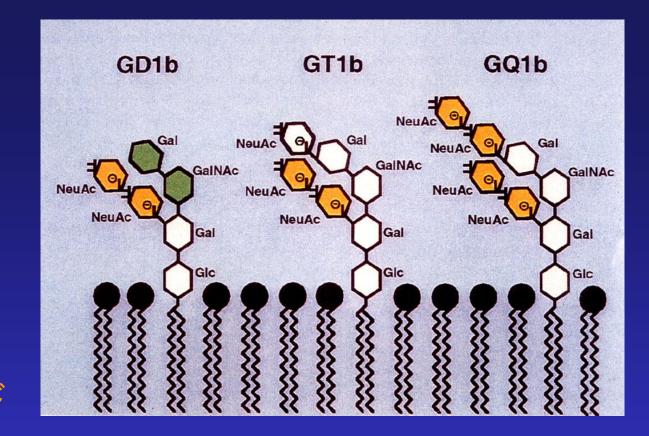
• 脊椎疾患に伴う障害 変形性脊椎症、椎間板ヘルニアな

## 免疫関連性ニューロパチー

1) Guillain-Barré 症候群

AIDP AMAN (AMSAN) Fisher症候群 など

- 2)慢性免疫性ニューロパチー
  - i) CIDP (MMNを含む)
  - ii) IgM パラプロテイン血症を伴う ニューロパチー
  - iii) Crow-Fukase症候群



#### ガングリオシド

- 1)シアル酸を糖鎖に含むスフィンゴ糖脂質
- 2) 糖鎖構造に基づいて数多くの分子種
- 3)神経組織に多く分布
- 4) 糖鎖を外へ向けて細胞表面に存在する
- 5)分子種ごとに独特の局在を示す
  - →抗体は神経障害の分布、臨床病型、を決定する

#### 免疫性ニューロパチーと糖脂質抗体

IgMパラプロテイン血症を伴うニューロパチー IgM M蛋白がMAGを認識 Latov et al. 1981, 1982 同じM蛋白が糖脂質SGPGを認識 Ariga et al. 1987

Multifocal motor neuropathy
IgM抗GM1抗体がみられる Pestronk et al. 1988

GBSと抗糖脂質抗体 GBSでも抗糖脂質抗体がみられる Ilyas et al. 1988 軸索障害型GBSとC.jejuniとGM1抗体 Yuki et al. 1990, 1993

Fisher症候群と抗GQ1b抗体 Fisher症候群で抗GQ1b抗体がみられる Chiba, Kusunoki, et al. 1992

#### 免疫性ニューロパチーと抗糖脂質抗体(つづき)

Gangliosideによる神経症状 hind leg paralysis (flaccid – GD1a, rigid – GM1) Nagai et al 1976

Galactocerebrosideによる脱髄性ニューロパチー Saida et al. 1979

GD1bによる感覚障害性失調性ニューロパチー Kusunoki et al. 1996

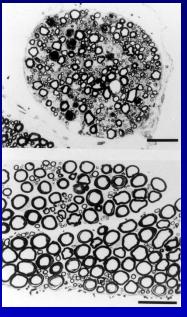
GM1による軸索障害型ニューロパチー Yuki et al. 2001

抗GQ1b抗体による呼吸障害

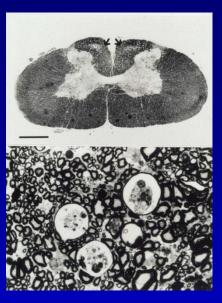
Halstead et al. 2008







Roots(dors.,vent.)



Dorsal column

Experimental sensory ataxic neuropathy induced by sensitization with GD1b (GD1b-SAN) (Kusunoki et al. Ann Neurol, 1996)

Monospecific anti-GD1b IgG is required for induction of GD1b-SAN (Kusunoki et al. Ann Neurol, 1999)

Passive transfer of the anti-GD1b antiserum induced the pathological changes similar to those of the GD1b-SAN (Kusunoki et al. Neurosci Lett, 1999)

Apoptosis of large neurons of DRG from the affected rabbits was confirmed (Takada et al. Exp Neurol, 2008)

→Monospecific anti-GD1b IgG causes ataxic neuropathy

#### **GBS CQ 7-2**

ギラン・バレー症候群の診断のために行うべき検査は何か.

推奨

典型例では病歴と臨床症候のみからギラン・バレー症候群の診断は

可能である.しかし他疾患を除外して、診断を確定するために、

種々の補助検査の施行が考慮される(グレードC1).

神経伝導検査を代表とする電気生理学的検査は多くの例で初期から 異常がみられ、診断の感度・特異度とも高いので施行が推奨される (グレードC1).

脳脊髄液検査は他疾患の除外のために施行が推奨される (グレードC1).

ガングリオシド抗体は診断の特異度が非常に高く、特に診断に迷う 例では施行が推奨される(グレードC1).

その他各種鑑別対象疾患に応じて必要な補助検査を追加する (グレードC1). Fisher CQ 8-1 フィッシャー症候群診断における糖脂質抗体測定 の意義は何か

#### 推奨

血清GQ1b IgG抗体はフィッシャー症候群および関連疾患において特異的に上昇しており、診断マーカーとして非常に有用である(グレードC1).

#### ギランバレー症候群、フィッシャー症候群 診療ガイドライン作成委員会

委員長

楠進

委員

評価•調整委員

協力委員

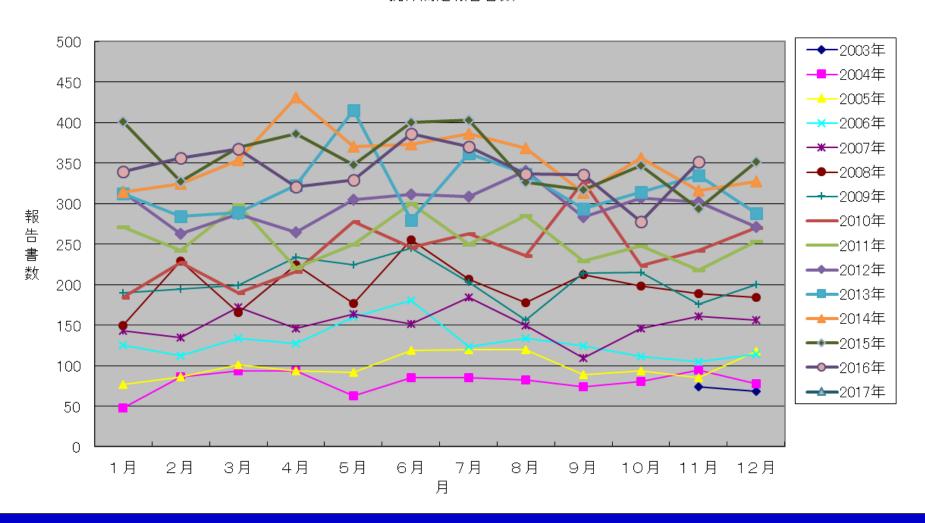
有村 公良 斎藤 豊和 祖父江 元

飯島正博 小鷹 昌明 海田 賢一 横田 降徳





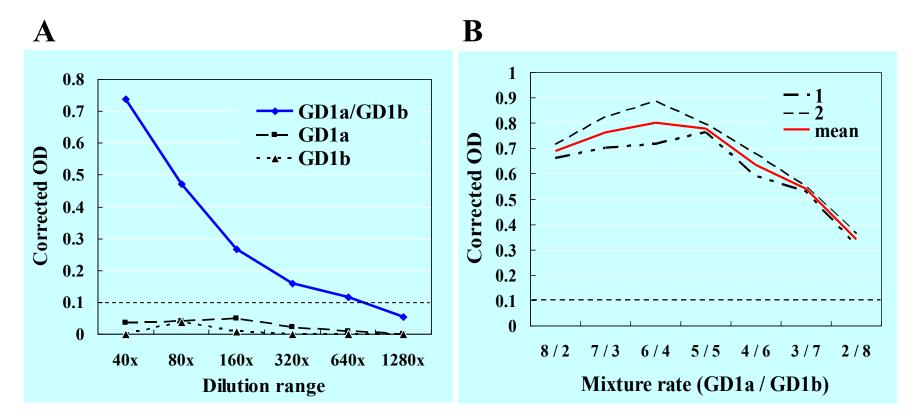
抗体測定報告書数



## 疑い病名を含めた集計(年間)

ボラン・バレー症候群 約1500件 フィッシャー症候群 約500件 ビッカースタッフ脳幹脳炎 約150件 CIDP 約700件 多巣性運動性ニューロパチー 約300件 IgM M蛋白を伴うニューロパチー 約100件

#### Anti-GD1a/GD1b antibody in serum of Patient A



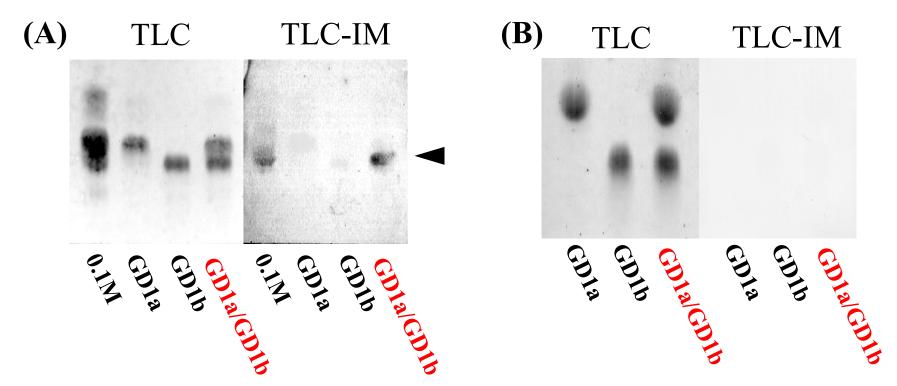
#### **ELISA** results.

- (A)Serum was diluted 1:40 to 1:1280.
- (B) ELISA results for various mixtures of GD1a and GD1b antigens. ELISAs were repeated twice in the same way.

The corrected OD values are the highest at 6:4 and 5:5.

Kaida K et al. Ann Neurol 2004; 56: 567-571

#### Anti-GD1a/GD1b antibody in serum of Patient A



obtained by extraction with 0.1M ammonium acetate). The immunostaining was seen on the variation by the both of the angle of the control of t

表に記載した抗原に対する抗体を測定しました。結果は以下の通りです。

IgG IgM IgG 糖脂質 ·

		+PA		
GM1				GalNAc-GD1a
GM2	-			GD1a/GD1b
GM3	-			
GD1a	-			
GD1b	-	-		
GD3	-	-		
GT1b	-			
GQ1b				
Gal-C	 -	+		

※ 検査陰性は一で記載、空欄は未測定です。

## 抗ガングリオシド複合体抗体

GD1a/GD1b, GD1b/GT1b 重症GBS

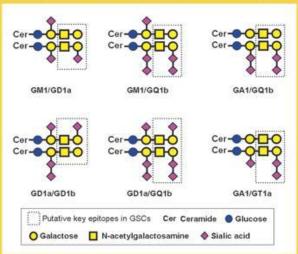
GM1/GalNAc-GD1a AMCBN

GQ1b関連複合体 Fisher、眼球運動麻痺

LM1関連複合体 AIDP, CIDP



OFFICIAL JOURNAL OF THE INTERNATIONAL SOCIETY FOR NEUROIMMUNOLOGY



ournal of

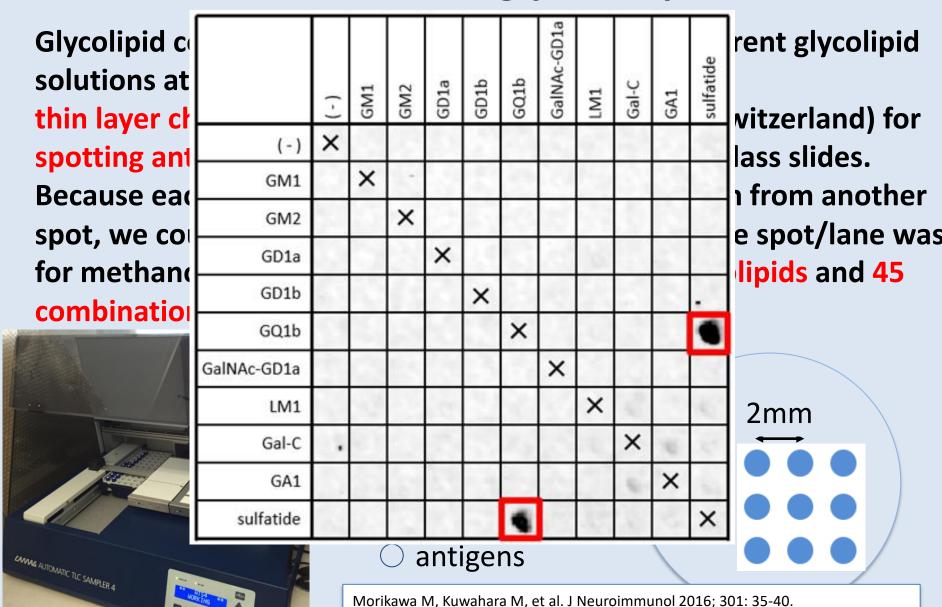
# Neuroimmunology

EDITOR-IN-CHIEF: CEDRIC S. RAINE

Review Paper
Antibodies to gangliosides and ganglioside complexes
in Guillain–Barré syndrome
and Fisher syndrome

K. Kaida and S. Kusunoki

### **Combinatorial glycoarray**



Yoshikawa K, Kuwahara M, et al. Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm 2018; 5: e501.

### 中枢神経障害にみられる糖脂質抗体

GQ1b抗体

Gal-C抗体

ビッカースタッフ脳幹脳炎(Bickerstaff brainstem encephalitis, BBE)

- 眼球運動障害・運動失調・意識障害を三主徴とする自己 免疫疾患である。
- 症状は4週以内にピークとなり、その後は徐々に回復に 向かうのが原則である。
- GQ1b抗体が高頻度に陽性となる。
- 約半数の症例で四肢筋力低下をきたし、主として四肢筋力低下による後遺症がみられることが多い。また運動失調が残存することもある。

#### マイコプラズマ肺炎後の神経障害と抗Gal-C抗体

Kusunoki S et al: Anti-Gal-C antibody in autoimmune neuropathies subsequent to mycoplasma infection. Muscle Nerve 1995; 18:409-413

Kusunoki S et al: Anti-Gal-C antibodies in GBS subsequent to mycoplasma infection: evidence of molecular mimicry. Neurology 2001; 57:736-738

Kuwahara M, Samukawa M, Ikeda T, Morikawa M, Ueno R, Hamada Y, Kusunoki S. Characterization of the neurological diseases associated with Mycoplasma pneumoniae infection and anti-glycolipid antibodies. J Neurol 2017 264:467-475

マイコプラズマ肺炎後の脳脊髄炎は、小児例が多く、 IgM 抗Gal-C抗体がみられる

#### まとめ

- 1)われわれは神経内科疾患における糖脂質抗体の測定を行ってきた。
- 2) 糖脂質抗体はギラン・バレー症候群やIgMパラプロテイン血症を伴うニューロパチーをはじめとして、免疫性末梢神経障害の診断に有用であり、ガイドラインにもその有用性が述べられている。
- 3)一方で、一部の免疫性中枢神経疾患でも検出されることがある。
- 4) 測定法の改良や新たな抗原に対する抗体活性を検討することにより、今後その適用範囲はさらに広まる可能性が考えられる。





# ご静聴、有難うございました

